

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	アコライト	Lv.1:		レベル	7
サポートクラス	バーサーカー	Lv.1:	サムライ	性別	女
称号クラス				年齢	-
種族	アルカード			境遇	没落
出自 (効果)	ドクター			目標	逃亡

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	15	19	8	10	7	15	6
ボーナス	5	6	2	3	2	5	2
クラス修正	1	2	0	1	1	1	0
他修正							
能力値	6	8	2	4	3	6	2

HP	69
MP	73
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	伝承武具：ペンタメローネ	至近	0	18				-2	
左手									
頭部	狂撃の兜					5	1		
胴部	狂撃の鎧					10	0		
補助	狂撃の籠手					4			
装身具	手入れ道具								
能力値			8	0	2	0	6	5	11
スキル	バーサーク、ゴッドスプレス、グランイン			19					
その他	鎖、手入れ道具		1	3					
総計(右)			9	40					
総計(左)			9	22	2	19	7	3	11
総計(両)			9	40					m
ダイス数			5 d	12 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	3			3	+ 2 d
トラップ解除	8			8	+ 2 d
危険感知	3			3	+ 2 d
エネミー識別	4			4	+ 2 d
アイテム鑑定	4			4	+ 2 d
魔術判定	4			4	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
●アームズクリスタル	
武烈のクリスタル	
●リンク効果	●消耗品類
バーサーカー装備三種	HPポーション
●	
冒険者セット	野菜×4
ベルトポーチ	野菜×10
バックパック	

現在重量： 22 所持金： 22 預金・借金：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ナイトウォーカー	★	-	パッシブ/メイン	-	-	-		
効果： 暗闇によるペナルティを受けない(明度2以下)暗闇の影響がある場所にいる間ダメージ+1D								
プロテクション	5	3	DR直後	20m	単体	自動成功	1/MP	
効果： 対象が受ける予定のダメージに-[SLd]								
ヒール	1	4	メジャーアクション	20m	単体	魔術		
効果： 対象のHPを3D+CL*3点回復								
アームズマスタリー：両	1	-	パッシブ	-	自身	-	両使用	
効果： 武器を使用した命中判定+1D								
バーサーク	5	3	マイナー	-	自身	自動成功		
効果： シーン間武器攻撃ダメージ+[SL*3] リアクション判定-1D マイナーアクションで解除可能								
	★							
効果：								
クイックヒール	1	5	イニシアチブ	-	自身	自動成功	1/シーン	
効果： ヒールを同時に使用する。イニシアチブ回復								
アフェクション	1	-	DR直後	20m	単体	自動成功		
効果： 対象がダメージを受ける直前に使用。そのダメージを0に変更する。								
ソウルヒート+1	3	3	《バーサーク》	-	自身	自動成功		
効果： [狂戦士化(SL+1)]を受ける。								
ブルータルストライク	1	-	効果参照	-	自身	-	両使用、シーン	
効果： [狂戦士化]中白兵攻撃と同時に使用。対象の【物理防御力】【魔法防御力】を0とみなしてダメージを算出する。								
	★							
効果：								
	★							
効果：								
エターナルシャドウ	1		セットアップ		自身	自動成功		
効果： シーン間持続 暗闇(明度1)の影響を受けるものとして扱う								
	★							
効果：								
ソニックブーム	1	4	メジャー	sl*10	単体	命中		
効果： 対象に白兵攻撃を行う。エンゲージ外可								

「して欲しいことは何でもしてあげ、次はどうすればいい？」
「私が『とって』あげる」
「好きよ、アーネスト。私は貴方愛してる。これってとっても幸福なことだと思うの」

【グローザ】の女。スラムに似つかわしくない華やかな美女で境界では広く顔が知られている。常に微笑みを絶やさず他人に尽くす献身的な女だが、その実態はリーダーであるアーネスト・ルーインズを盲目的に信仰し彼の言葉に従う狗。愛を囁くだけの空虚な人形に過ぎない。

願望は苦痛からの逃避。貴族の妾腹に生まれたが家は没落し離散、生きる術を失いスラムに墜ちる。連れている赤竜は唯一残った生家の財産。ヴィクトルを除き唯一の昔の自分を知っている、素の自分を見せられる存在。愛玩であれど、愛情を向けている。

ただ死を待つだけの幼子だったが、ヴィクトルに出会い救われ、文字通りあらゆる手段を用いて彼と共に生きてきた。始まりこそ彼の庇護により生を繋いだ、彼に支えられるのではなく、支え合うこと。共に生きていく関係を築くことを望む。その結果元々持っていた癒し手としての才を腐らせ、他人を傷つける為の術を身に付けている。本来ならば、人に取り入るのならイヴの側が。実力を行使するのであれば、ヴィクトルの側が適していただろう。しかし互いに適した分野と、自身の性向が異なっていた。

イヴは彼が無用な暴力を振るわないで済むことを願い、武器を手にし、他者を踏み躪ることを是とする道を選んだ。そのことに後悔はない。

アーネストの言葉が真実であるように、ヴィクトルの為に身を削ることも、イヴにとっては自分の為にするそれと同じことだ。彼とは理解しあえない面もあるが、それ以上に、芯の部分で彼の意志は自分の意志だと——半身のように想っている。

ヴィクトルと共に暮らすようになって相応の年月が経ってから、アーネストが立ち上げた自警団に身を救われ【グローザ】最初の一人になった。グローザ内では常に彼の傍に仕えるが、命令がなければ基本的に『彼のためになる』と考えたこと以外何もしない。

